豊田市の水辺愛護会
発行：豊田市矢作川研究所
471-0025　豊田市西町 2-19
豊田市職員会館 1 階
TEL：0565-34-6860 担当：吉橋
2017 年 1 月発行

お邪魔しました！活動日訪問記　2016 年 12 月 18 日（日）

かつて矢作川には「物流の大動脈」ともいうべき時代がありました。当時山で伐られた材木や竹はこの小渡（おど）の上流の時瀬（ときせ）で筏に組まれ、流されていきました。また、小渡は陸上交通の要所でもあり、人の往来が盛んだったといいます。その面影は、今も多くの人を惹きつける懐かしいまちなみに感じることができます。

◆霜が降りた 12 月の日曜、活動日に訪問させていただきました。

朝 9 時前。県道から川辺に至る活動地に向かいます。管理道路わきの未整備エリアの竹やぶは薄暗く、見通しがききません。竹はまっすぐに立っているとは限らず、黄色く枯れて斜めに倒れかかっているもの、途中でぽっきり折れているものも。それらの竹が他の木と複雑に交じり合っていました。黒ずんだ割れ竹も落ちています。

◆歩を進めると、一転、広場に出ます。ここも以前は未整備エリアと同様の光景が広がっていたのを何年もかけて開いたそうです。

既に数人の会員の姿があり、川向こうには小渡小学校が見えました。竹がパンパンと勢いよく爆ぜながらオレンジの炎を上げて燃え

ており、焦げた葉が舞いあがっていました。

会員は徐々に集まり 16 人ほどになりました。会長の鵜居利行さんから朝のご挨拶です。「今日は通りに置いてある竹を燃やしたいと思っています。」「ちょっと動き出したらあったかくなるよ。」

活動が始まりました。県道に沿った斜面のやぶの草刈りに数人、刈り払い機やチェーンソーで竹や木を伐る人、運ぶ人、燃やす人。私も竹運びのお手伝いをさせていただきました。竹は太い物も多く、長いと引きずるのに一苦労です。特に根っこがついていると一度に一本しか運べません。

竹を運んでいると、吐く息は白いのに体はぽかぽかしてきます。会員の皆さんも「寒いけどあつい」「汗かくね」と言い合いながら進めています。

10 時、3 人の会員が休憩の合図の笛を鳴らしましたが刈り払い機の音が大きく、なかなか聞こえません。鵜居会長が「おーい！小休止！お茶やってください！」と大きな声で伝えて休憩に入りました。

◆小渡セイゴ水辺愛護会の 48 人（2015 年 10 月時点）は全員男性で、愛護会全体の平均より年齢層が若いのが特徴です※。

幾人かの方にお話を伺いました。以前この竹やぶは換金できる材料としての竹、竹皮の産地だったそうです。会員たちが子どもの頃、その竹やぶを通り抜けて向かう矢作川は、ダムができる前は川幅が広く、水量があってさらさらと流れている川、魚がたくさんいる川でした。この場所は川遊びやターザン遊びをする場所だったのです。

◆休憩後も草刈りや、絡まった木を数人がかりで伐りながらの竹伐り、運びが続けられ、すっきりした空間が現れました。焚火の周りに全員集まって活動終了です。

「一気に明るくなったね」という声も聞こえてきました。

そして、この日はこの年最後の活動日。イノシシを捕ったという会員からしし鍋の振る舞いがありました。いい汗をかいた後の、思わず笑顔になってしまうおいしいごちそうでした。

◆これまでの活動によって、県道を覆っていた竹による冬期の道路凍結はなくなり、対岸への眺め、対岸からの眺めもよくなりました。なにより川を挟んで活動地の向かいにある小渡小学校の子ども達こそが最もその眺めの良さを享受し、心に刻んでいることでしょう。会員たちは子ども達の存在を感じながら活動し、子ども達は風景を守る大人たちの軌跡を見続け、感じることができるやりがいのある活動であると感じました。

※市全体でみると 60 代 70 代が 64%と主力であるのに対し、この愛護会は 40 代 50 代の比率が 60%と高い。

＜小渡セイゴ水辺愛護会＞

結成…2008（平成 20）年 4 月
現会長…鵜居利行氏　会員 48 人
（2015 年 10 月時点）
活動地…笹戸ダム下流
小渡セイゴ地区

小渡の竹は大活躍！

お話：鵜居利行会長

―他の愛護会から、「伐った竹の活用法を知りたい」という声をお聞きするのですが、こちらの愛護会は竹を活用していらっしゃいますね。小渡のまちづくりと竹は切っても切れない関係とのこと、ぜひお話を聞かせてください。

昔遊び場だった所を少しでも明るくしよう、眺めを良くしようというみんなの思いでただただ竹を伐ってきた。斜面は足を滑らせると危ないしキツイ仕事だけどね。

あそこの竹も竹皮も昔は伐ればいくらでも売れたそうだよ。今は売れんね。

竹は燃やしたり市役所に頼んで外に持ち出すほうが多いけど、いくらかは利用して、地元の人達に楽しんでもらって、竹林整備の理解も深めてもらおうと思ってね。竹灯篭や松明、小渡やなの竹簾に竹を使ってもらってます。（下記参照）。

その他に、子ども向けで平成 26 年の夏休みは「竹講座」。参加者は親子で 20 名弱かな。竹の飯ごうでタケノコご飯を作って、竹どんぶりで食べてもらって。「家ではやれんことがでやれた」って喜んでもらえたよ。最近はあまりしていないが小学校にも工作用に竹を提供しとった。子どもは宝だね。

（2016 年 12 月 13 日聴き取り）

「楕円形の優しい光がちらちらと揺れてなんともいえん」

●竹灯篭として●食器として●

夢かけ風鈴まつり（7 月）

風鈴行列の道に竹灯篭を並べ足灯りにする。（毎年 7 月から 8 月にかけて開催。初日に風鈴行列が行われる。小渡の夢をかなえる会主催。）

おど夢竹灯篭まつりと十五夜お月見会（9 月）

竹灯篭でかいた「光」の字

竹灯篭を並べ一つの大きな文字にしたり、飾りつけをする。竹徳利、竹のおちょこでお酒を出し、竹のお皿に竹皮を巻いてお菓子を出した。（2016 年度は智教院境内。小渡山里愛護会主催。小渡セイゴ水辺愛護会協力）

夢渡野 Jazz Live（10 月）

愛知学泉大学学生も参加

「「竹灯篭を約 300 本敷き詰める.（小渡神明社にて。夢渡野会主催）

アートイベント

「小渡アートミルフィーユ」や「デカスプロジェクト」で竹灯篭を提供。

※枠内の一枚目、右の二枚の写真…鵜居さん提供

「一度見においでん！」

●松明として●

小渡天王祭（8 月）

芯にする竹は冬の間に伐っておく。上面の青竹は 8 月はじめに 1 m～1.5mぐらいに伐る。

（津島神社祭礼。8 月 15 日、ふんどし姿の若い衆が約２mの松明を持って町内を走る。）

「やなは地域の者が金を出し合って作る年寄の働く場。やながあるのはまちが元気ということ」

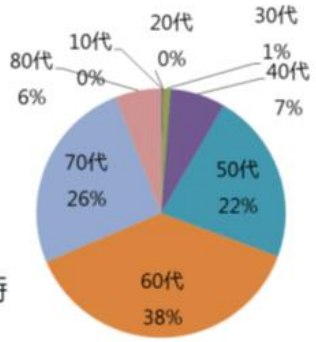
●「小渡やな」の竹簾として●

県道に沿った斜面に生えている竹はまっすぐで長いので、やなをやっている人々から「あそこの竹が欲しい」という希望が出る。

豊田市の水辺愛護会について

自治区の有志で組織（原則１自治区１団体）。市に指定された範囲内において活動を行う。

- 19 団体、656 人。（毎年登録）
- 一団体 12 人～113 人（平均 34.5 人）
- 男性 86%、女性 14%（以上、2015 年 10 月現在）
- 活動延べ人数：4,570 人／年（2014 年度・会員 656 人）



全体の年代構成

活動頻度：月１～２回程度　土曜日又は日曜日の午前中
活動内容：河畔の竹木の間伐、草刈り、ゴミひろい、適切な維持管理についての知識向上積極的な活動人員の確保、など
面積（上流５団体除く 14 団体）：200,200 ㎡（平均 14,300 ㎡）

活動の成果

- 「ながめ」が良くなった
（川面を見られるようになった。河畔林が見通せるようになった。対岸へのながめ、対岸からのながめがよくなった。）
- 川までたどり着けるようになった
- 人と人とのつながりが昔のように強まった
- ふるさとに自信が持てるようになった　等

活動の課題

- 会の継続性への不安（高齢化と人手不足）
- 目標・将来像・方向性を考える場が少ない
- 作業のマンネリ化で「やる気のもと」がない
- 河畔林の恵みという意味の「見返り」がない
- 愛護活動は生物の生息環境から見て適正か
- 地域住民・市民の関心が低い　等

発行：豊田市矢作川研究所
〒471-0025
豊田市西町 2-19
豊田市職員会館１階
電話 0565-34-6860
Fax　0565-34-6028
（担当：吉橋久美子）